CFOの北村です。

最初に、このたびの「令和6年能登半島地震」で被災されました方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

それでは、お手元の「決算説明資料」に沿って、2024年3月期第3四半期の決算について、ご説明します。2ページをご覧ください。

目次

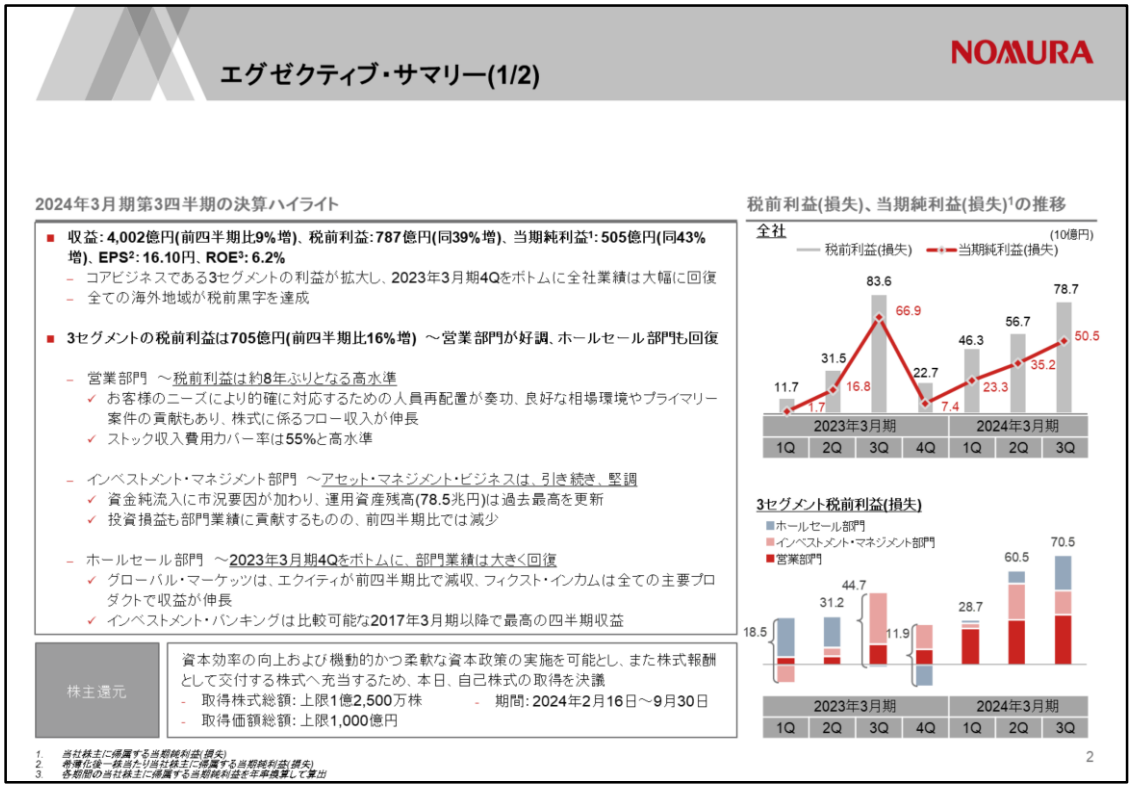
NOMURA

プレゼンテーションの概要

- エグゼクティブ・サマリー(P2-3)
- 2024年3月期決算の概要(P4)
- セグメント情報(P5)
- 営業部門(P6-8)
- インベストメント・マネジメント部門(P9-10)
- ホールセール部門 (P11-13)
- 金融費用以外の費用(P14)
- 強固な財務基盤を維持(P15)

Financial Supplement

- バランス・シート関連データ(P17)
- バリュー・アット・リスク(P18)
- 連結決算概要(P19)
- 連結損益(P20)
- 連結決算：主な収益の内訳(P21)
- 連結決算：セグメント情報と地域別情報　税前利益(損失)(P22)
- セグメント「その他」(P23)
- 営業部門関連データ(P24-27)
- インベストメント・マネジメント部門関連データ(P28-29)
- ホールセール部門関連データ(P30)
- 人員数(P31)



全社収益は4,002億円、前期比9%の増収、税前利益は787億円、39%の増益、当期純利益は505億円、43%の増益と、右上にありますように、昨年第4四半期をボトムに、業績の回復基調が続いています。

第3四半期の前半は、FRBによる金融引締めの修正を巡って、マーケット参加者が一喜一憂する、神経質な展開が続きました。中東情勢の緊迫もあり、株式市場の振れ幅は大きく、全体的に不透明感が強かったと言えます。

期の後半に向けて、米国でインフレ鈍化が確認され、過去2年間、急ピッチで進んだ利上げがようやく出口に向かうとの期待感から、株式市場は堅調に推移しました。債券市場でも金利低下とクレジット・スプレッドのタイトニングが進み、証券化商品の発行では、回復の兆しも見られました。

また今期も、日本市場に高い関心が集まった四半期でした。金融政策の変更期待、日本企業による資本効率の改善や政策保有株の削減に向けたさまざまなアクション、そして新NISA導入に向けた投資機運の高まりなど、機関投資家だけでなく、事業会社、そして個人投資家の動きが活発になりました。

こうした市場環境を背景に、野村グループの強みである、「日本における強固な顧客フランチャイズ」と「グローバル・ネットワーク」を最大限活かし、お客様のニーズにあった商品やサービス、そしてソリューションを提供しました。この結果、コアビジネスである3セグメントで、良いモメンタムが確認できています。

各ビジネスの業績は後ほどご説明しますが、右下にありますように、主要3セグメントの税前利益は705億円、前期比16%の増益となりました。海外ホールセールでは、期の後半に掛けて顧客アクティビティが回復し、すべての海外地域で税前黒字を達成することができました。

希薄化後のEPSは16円10銭、ROEは6.2%と、まだ満足いく水準ではありませんが、業績回復に向けた手ごたえを感じています。

こうした業績モメンタムや資本の充分性を背景に、本日、資本効率の向上および機動的かつ柔軟な資本政策の実施を可能とし、また、株式報酬として交付する株式へ充当するため、自己株式の取得を決議いたしました。株数の上限を1億2,500万株、金額の上限を1,000億円、期間は本年2月16日から9月30日といたします。

エグゼクティブ・サマリー(2/2)

NOMURA

2024年3月期第1-3四半期累計の決算ハイライト

- **税前利益: 1,818億円(前年同期比43%増)、当期純利益[1]: 1,091億円(前年同期比28%増)、EPS[2]: 34.69円、ROE[3]: 4.5%**
- 3セグメント合計の税前利益は1,597億円(前年同期比69%増) ～営業部門、インベストメント・マネジメント部門が好調
  - 営業部門は大幅増益 ～今春行ったお客様のニーズにより的確に対応するための人員再配置が奏功、良好な相場環境も追い風となり、フロー収入、ストック収入ともに大きく伸長
  - インベストメント・マネジメント部門の利益も回復 ～資金純流入を伴って運用資産残高は過去最高を更新するなど、運用ビジネスが好調。投資損益も改善
  - ホールセール部門は減益 ～日本エクイティや日本・海外インベストメント・バンキングは増収も、不透明な市場環境もあり、海外フィクスト・インカム(特に金利、為替/EM)が上半期に苦戦
- セグメントその他の税前利益は、関連会社株式の一部売却益[4]を計上した前年同期比で減少

	2024年3月期 第1-3四半期累計	2023年3月期 第1-3四半期累計	前年同期比
収益(金融費用控除後)	1兆1,169億円	1兆106億円	11%
税前利益(損失)	1,818億円	1,268億円	43%
当期純利益(損失)[1]	1,091億円	854億円	28%
EPS[2]	34.69円	27.44円	26%
ROE[3]	4.5%	3.8%	

税前利益(損失): セグメント情報

	2024年3月期 第1-3四半期累計	2023年3月期 第1-3四半期累計	前年同期比
営業部門	839億円	237億円	3.5x
インベストメント・マネジメント部門	424億円	271億円	56%
ホールセール部門	333億円	436億円	-24%
3セグメント合計	1,597億円	944億円	69%
その他	366億円	577億円	-37%
営業目的で保有する投資持分証券の評価損益	-146億円	-254億円	-
税前利益(損失)合計	1,818億円	1,268億円	43%

1. 当社株主に帰属する当期純利益(損失)
2. 希薄化後一株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)
3. 各期間の当社株主に帰属する当期純利益を年率換算して算出
4. 関連会社である野村総合研究所株式の売却関連利益(280億円)

3

3ページは、12月末までの9か月の累計です。

収益は1兆1,169億円、11%の増収。税前利益は1,818億円、43%の増益、当期純利益は1,091億円、28%の増益となりました。EPSは34円69銭、ROEは4.5%です。

右側にありますように、3セグメントの税前利益は1,597億円、69%の増益。営業部門が3.5倍の大幅増益、インベストメント・マネジメント部門も56%の増益となっております。

それでは、第3四半期のビジネスの状況について、営業部門からご説明します。6ページにお進みください。これから申し上げるパーセンテージは、すべて第2四半期との比較となります。

2024年3月期決算の概要

NOMURA

決算ハイライト

(10億円、EPS及びROEを除く)

	2023年3月期		2024年3月期					23年3月期	24年3月期	
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	前四半期比	前年同期比	1Q-3Q累計	1Q-3Q累計	前年同期比
収益合計(金融費用控除後)	393.7	324.9	348.9	367.8	400.2	9%	2%	1,010.6	1,116.9	11%
金融費用以外の費用	310.1	302.2	302.6	311.0	321.5	3%	4%	883.9	935.1	6%
税前利益(損失)	83.6	22.7	46.3	56.7	78.7	39%	-6%	126.8	181.8	43%
当期純利益(損失)[1]	66.9	7.4	23.3	35.2	50.5	43%	-24%	85.4	109.1	28%
EPS[2]	21.51円	2.34円	7.40円	11.21円	16.10円	44%	-25%	27.44円	34.69円	26%
ROE[3]	8.5%	0.9%	2.9%	4.3%	6.2%			3.8%	4.5%	

1. 当社株主に帰属する当期純利益(損失)
2. 希薄化後一株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)
3. 各期間の当社株主に帰属する当期純利益を年率換算して算出

セグメント情報

NOMURA

収益合計(金融費用控除後)、税前利益(損失)

(10億円)

		2023年3月期		2024年3月期					23年3月期	24年3月期	
		3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	前四半期比	前年同期比	1Q-3Q累計	1Q-3Q累計	前年同期比
収益	営業部門	81.0	75.3	92.1	98.9	102.6	4%	27%	224.9	293.6	31%
	インベストメント・マネジメント部門	57.0	37.8	26.5	45.1	38.9	-14%	-32%	90.7	110.6	22%
	ホールセール部門	189.1	178.8	190.9	204.1	217.0	6%	15%	593.5	611.9	3%
	3セグメント合計	327.0	292.0	309.4	348.1	358.6	3%	10%	909.1	1,016.1	12%
	その他(※)	87.3	37.9	43.8	17.0	54.6	3.2x	-37%	126.9	115.3	-9%
	営業目的で保有する投資持分証券の評価損益	-20.7	-4.9	-4.3	2.7	-13.0	-	-	-25.4	-14.6	-
	収益合計(金融費用控除後)	393.7	324.9	348.9	367.8	400.2	9%	2%	1,010.6	1,116.9	11%
税前利益(損失)	営業部門	13.3	9.8	22.9	29.0	31.9	10%	141%	23.7	83.9	3.5x
	インベストメント・マネジメント部門	33.3	16.4	3.6	23.2	15.6	-33%	-53%	27.1	42.4	56%
	ホールセール部門	-1.9	-14.2	2.1	8.3	23.0	178%	-	43.6	33.3	-24%
	3セグメント合計	44.7	11.9	28.7	60.5	70.5	16%	58%	94.4	159.7	69%
	その他(※)	59.5	15.7	21.9	-6.5	21.2	-	-64%	57.7	36.6	-37%
	営業目的で保有する投資持分証券の評価損益	-20.7	-4.9	-4.3	2.7	-13.0	-	-	-25.4	-14.6	-
	税前利益(損失) 合計	83.6	22.7	46.3	56.7	78.7	39%	-6%	126.8	181.8	43%

(※) 第3四半期の「その他」に関する補足

- 経済的ヘッジ取引に関連する利益(76億円)
- デリバティブに関する自社およびカウンター・パーティのクレジット・スプレッドの変化に起因する損失(1億円)

営業部門

NOMURA

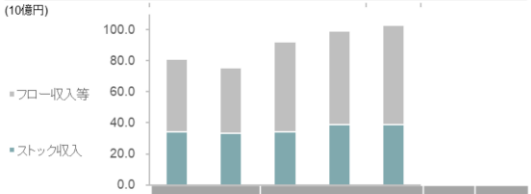
収益合計(金融費用控除後)、税前利益/損失

(10億円)

	2023年3月期		2024年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
収益合計(金融費用控除後)	81.0	75.3	92.1	98.9	**102.6**	4%	27%
金融費用以外の費用	67.8	65.5	69.1	69.9	**70.7**	1%	4%
税前利益/損失	13.3	9.8	22.9	29.0	**31.9**	10%	141%

収益の内訳

(10億円)



	2023年3月期		2024年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
ストック収入[1]	34.0	33.5	34.2	38.9	**38.6**	-1%	14%
フロー収入等[2]	47.1	41.8	57.8	60.1	**64.0**	7%	36%
収益合計(金融費用控除後)	81.0	75.3	92.1	98.9	**102.6**	4%	27%

決算のポイント

- 収益: 1,026億円 (前四半期比4%増、前年同期比27%増)
- 税前利益: 319億円 (前四半期比10%増、前年同期比141%)

- 前四半期までのモメンタムが継続し、税前利益は約8年ぶりの高水準
  - お客様ニーズにより的確に対応するための人員再配置が奏功。良好な相場環境やプライマリー案件の貢献もあり、株式に係るフロー収入が伸長
  - 安定収入であるストック収入は、過去最高となった前四半期並みの高水準
  - 収益が拡大するなか、コスト・コントロールも徹底

ストック収入
- ストック収入は前四半期並みの高水準 ～ストック資産純増を伴いながら、ストック資産残高(21兆円)は過去最高を更新

フロー収入等
- フロー収入等は前四半期比7%増 ～プライマリー案件や保険販売の増加により伸長
- 新規開拓やプライマリー案件を契機としたお客様との対話も進捗、フロービジネス顧客数は前年同時期を15%上回って推移

資産拡大項目	2024年3月期 2Q	2024年3月期 3Q
- 投信純増[3]	+719億円	+156億円
- 投資一任純増[3]	+252億円	+49億円
- 現金本券差引[4]	+3,569億円	+1兆2,202億円
- ストック収入費用カバー率[5]	56%	55%

1. 残高から発生する収入や継続的に発生する収入(投資信託、投資一任、保険、ローン、レベルフィー等) 、2023年3月期4Q以前の数字を遡及修正
2. 取引に付随して発生する収入(ブローカレッジ収入、コンサルティング関連収入)、ローン関連以外の金銭収益等 3. リテールチャネル、国内のウェルス・マネジメント・グループが対象
4. 地域金銭機関を除く、現金および本券の受入から払出を差引 5. ストック収入を金銭費用以外の費用で除したもの

6

営業部門の収益は1,026億円、4%の増収、税前利益は319億円と、2015年7-9月期以来、約8年ぶりの高水準となりました。

昨年の春に行った人員再配置の効果が定着し、お客様との対話において、質・量ともに良い兆しが出始めています。左下にありますように、フロー収入は7%増の640億円、良好な相場環境や、デンソー株式の売り出しなどプライマリー案件も貢献し、特に株式関連の収入が好調でした。

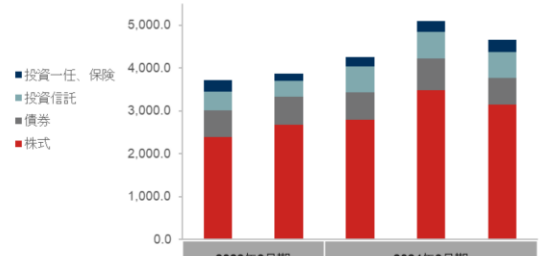
戦略的に力を入れているストック収入も、過去最高だった前期並みの水準です。部門収益が4%増加するなか、費用を1%増に留めており、ストック収入費用カバー率は55%と高水準です。

プロダクト別の募集買付状況について、7ページでご説明します。

営業部門:
総募集買付額は高い水準を維持

NOMURA

総募集買付額[1]



(10億円)	2023年3月期		2024年3月期		
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
株式	2,383.5	2,669.6	2,788.5	3,484.8	**3,146.7**
債券[2]	632.2	656.5	651.5	746.8	**617.8**
投資信託	430.8	382.1	597.4	619.8	**605.0**
投資一任	136.8	82.8	101.1	126.0	**118.9**
保険	133.6	87.2	120.9	120.5	**164.9**
総募集買付額	3,716.8	3,878.2	4,259.4	5,097.9	**4,653.4**

総募集買付額は前四半期比**9%**減

- 株式: 前四半期比**10%**減
  - 上昇基調のマーケットの影響により、国内セカンダリー株式買付額が減少
  - プライマリー株式募集額[1]は、前四半期比で大きく増加(**3,772**億円、前四半期比**4**倍)
- 債券販売額: 前四半期比**17%**減
  - プライマリー案件の剥落により外債販売額が減少
- 投資信託: 前四半期比**2%**減
  - お客様のリスク選好姿勢が継続し、国内外の株式ファンドをはじめとする幅広い投信に資金が流入。投信販売額は高水準を維持
- 投資一任契約: 前四半期比**6%**減
  - 上昇基調のマーケットが影響し、契約額は減少
- 保険販売額: 前四半期比**37%**増
  - お客様の全資産に対するコンサルティングを進めるなか、相続や老後資金準備ニーズを捉えた保険商品の販売額は過去最高を記録

投信の販売上位ファンド(2023年10月～12月)

1. アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信
2. ドナルド・スミス米国ディープバリュー株式ファンド
3. 日本好配当株投信

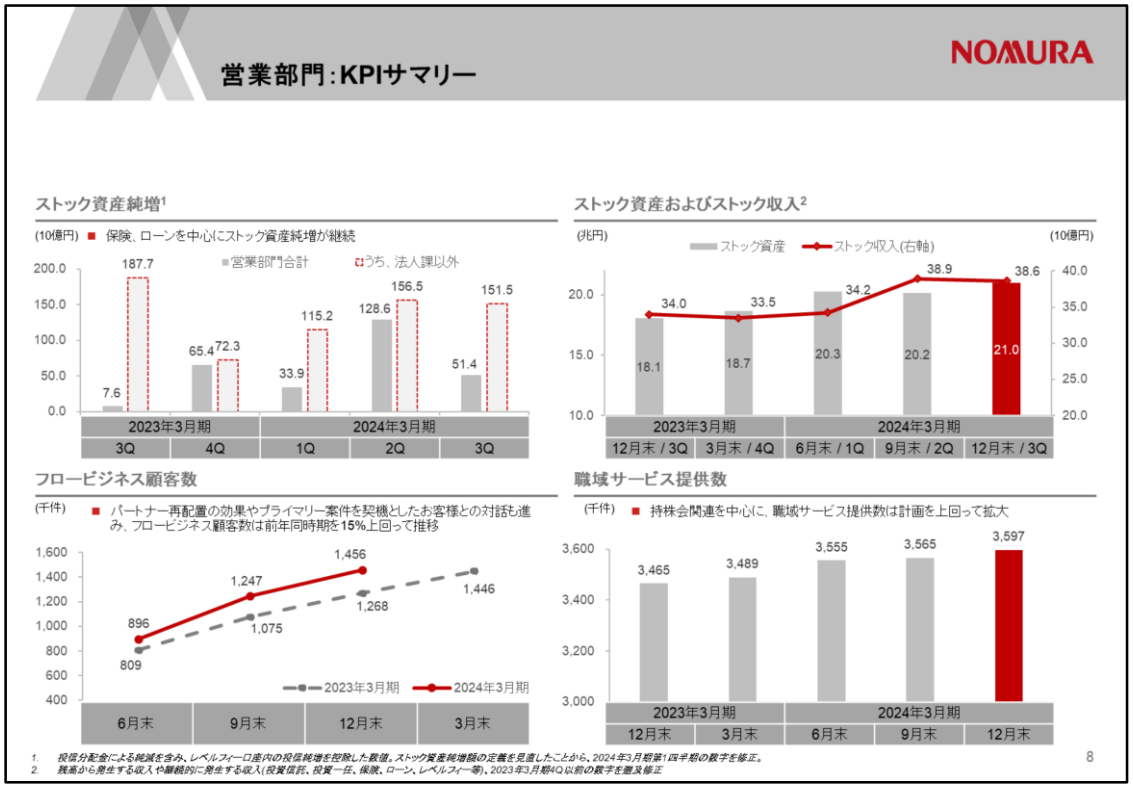
1. *リテールチャネル、国内のウェルス・マネジメント・グループ、ネット&コール、ほっとダイレクトが対象*
2. *債券の募集買付額の範囲を見直し、2024年3月期1Q以前の数字を新しい定義に合わせて遡及修正*

7

総募集買付は4.7兆円と、前期から9%減少しましたが、引き続き、高い水準です。
株式は3.1兆円と第1四半期以前の水準を大きく上回っており、今期は特にプライマリー募集額が好調でした。

また、保険販売額は過去最高を記録しています。お客様の全資産に対するコンサルティングを進めるなかで、相続や老後資金への備えとして保険商品を活用されるお客様が増えていて、これもパートナー再配置の効果と言えます。

続きまして、8ページにお進みください。KPIの進捗です。



左上のストック資産純増は、514億円です。マーケットの上昇を背景に、商品の値上がりによる大口の売却・出金が増え、前期からは減少していますが、法人課を除くと1,515億円で、引き続き、堅調です。右上のストック資産は21兆円と過去最高で、安定収益であるストック収入も高水準で推移しています。

今期、特に良かったのが、左下のフロービジネス顧客数です。パートナー再配置の効果や、プライマリー案件をきっかけとしたお客様との対話が進みました。12月末のフロービジネス顧客数は、前年同時期を15%上回る146万件となり、2025年3月期のKPI目標に迫る水準となっています。

ワークプレイス・ビジネスと呼んでいる、職域ビジネスも順調に拡大しています。サービスの提供数は約360万件となり、特に持株会会員の伸びが牽引しました。

続いて、インベストメント・マネジメント部門です。9ページにお進みください。

インベストメント・マネジメント部門

NOMURA

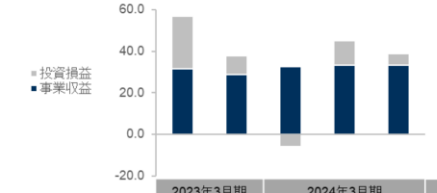
収益合計(金融費用控除後)、税前利益/損失

(10億円)

	2023年3月期		2024年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
収益合計(金融費用控除後)	57.0	37.8	26.5	45.1	**38.9**	-14%	-32%
金融費用以外の費用	23.7	21.5	22.9	21.9	**23.3**	7%	-1%
税前利益/損失	33.3	16.4	3.6	23.2	**15.6**	-33%	-53%

収益の内訳

(10億円)



	2023年3月期		2024年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
事業収益[1]	31.4	28.7	32.5	33.4	**33.3**	-0.3%	6%
投資損益[2]	25.6	9.1	-6.0	11.7	**5.6**	-52%	-78%
収益合計(金融費用控除後)	57.0	37.8	26.5	45.1	**38.9**	-14%	-32%

決算のポイント

- 収益:389億円 (前四半期比14%減、前年同期比32%減)
- 税前利益:156億円 (前四半期比33%減、前年同期比53%減)
  - 安定収入である事業収益は前四半期に次ぐ高水準
    - 資金純流入に市況要因が加わり、運用資産残高(78.5兆円)は過去最高を更新
  - 投資損益は、アメリカン・センチュリー・インベストメンツ(以下、ACI)関連損益の貢献が大きかった前四半期から減少

事業収益

- 収益:333億円 (前四半期比0.3%減、前年同期比6%増)
  - アセット・マネジメント・ビジネスは堅調
    - 投資顧問・海外ビジネスに資金純流入が継続、運用資産残高の積み上がりを受けて運用報酬が増加
  - 成功報酬や野村バブコックアンドブラウンからの収益貢献は前四半期比で若干の減少

投資損益

- 収益:56億円 (前四半期比52%減、前年同期比78%減)
  - ACI関連損益が収益に貢献するも、前四半期比では減少
  - 野村キャピタル・パートナーズ投資先企業の評価益は前四半期比で微増

1. 投資損益を除き、アセット・マネジメント事業(ACI関連損益を除く)及び野村バブコックアンドブラウンの航空機リース関連事業の収益並びにプライベート・エクイティ等の投資事業から得られるGP管理報酬を含む収益で構成
2. ACI関連損益、プライベート・エクイティおよびクレジット等の投資事業並びにめぶきフィナンシャル・グループの投資損益を含む投資に起因する収益(公正価値の変動、資金調達コスト、運用報酬、配当金を含む)で構成

9

収益は389億円、14%の減収、税前利益は156億円、33%の減益となりました。

左下にありますように、安定収入である事業収益は333億円と、2021年4月の部門設立以降の最高だった前四半期並みの高水準です。

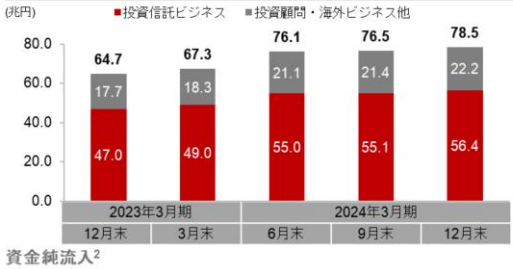
一方で投資損益は56億円と、アメリカン・センチュリー・インベストメンツ関連損益が減少し、減収となっています。

それでは、事業収益の元となっているアセット・マネジメント・ビジネスの状況について10ページでご説明します。

インベストメント・マネジメント部門：機関投資家向けビジネスでは資金流入が継続

NOMURA

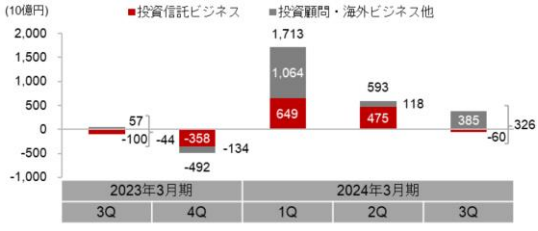
運用資産残高(ネット)[1]



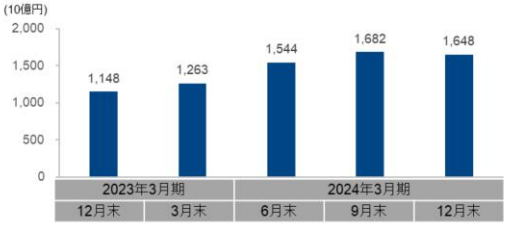
運用資産残高は3四半期連続で過去最高を更新

- **投資信託ビジネス**
  - MRF等に資金が流入(約700億円)も、日本株関連ETFから資金が流出(約1,300億円)
  - 投信(ETF、MRF等除く)への資金流入および流出はほぼ均衡
    - 野村證券および銀行等チャネルでは、グローバルでの相場上昇に伴う利益確定の売りが増加も、日本株や外国株投信を中心に資金流入が継続
- **投資顧問及び海外ビジネス他**
  - 国内では、円債運用を中心に資金流入が継続
  - 海外では、米国ハイ・イールド債およびインド株運用を中心に資金が流入

資金純流入[2]



オルタナティブ運用資産残高は微減も、資金純流入は継続[3]



1. 運用資産残高には、野村アセットマネジメント、ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント、ウエルス・スクエアの運用資産の単純合計(グロス)から重複資産を控除したものに加えて、野村スパークス・インベストメント、野村メザニン・パートナーズ、野村キャピタル・パートナーズ、野村リサーチ・アンド・アドバイザリーおよび野村リアルアセット・インベストメントの運用資産に対する第三者による投資額を含む　2. 運用資産残高(ネット)に基づく
3. 野村アセットマネジメントのオルタナティブ運用資産残高並びに野村スパークス・インベストメント、野村メザニン・パートナーズ、野村キャピタル・パートナーズ、野村リサーチ・アンド・アドバイザリーおよび野村リアルアセット・インベストメントの運用資産に対する第三者による投資額の合計

10

左上にありますように、12月末の運用資産残高は78.5兆円と、3四半期連続で過去最高を更新し、2025年3月末のKPI目標(75.8兆円)を上回って推移しています。

左下にありますように、今期の資金純流入は約3,300億円、うち、投信ビジネスは約600億円の流出となりました。マーケットの上昇を受けて利益確定の売りが増えたことが要因です。一方で、MRF等のマネーファンドは約700億円の流入となっており、個人の待機資金は積み上がっています。

投資顧問・海外ビジネスは、3,850億円の流入です。国内では、円債運用に資金が流入、海外では米国ハイ・イールド債やインド株運用などに流入しました。

右下にありますように、オルタナティブ運用資産残高は1.6兆円、期末の為替レートが円高方向に転じたことで若干の減少となっていますが、資金流入は続いており、プライベートな取り組みも進捗しています。

次にホールセール部門です。11ページをご覧ください。

ホールセール部門

NOMURA

収益合計(金融費用控除後)、税前利益/損失[1]

(10億円)

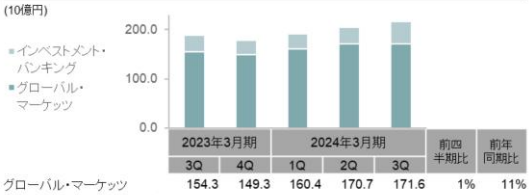
	2023年3月期		2024年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
収益合計(金融費用控除後)	189.1	178.8	190.9	204.1	**217.0**	6%	15%
金融費用以外の費用	190.9	193.1	188.7	195.8	**194.0**	-1%	2%
税前利益/損失	-1.9	-14.2	2.1	8.3	**23.0**	178%	-
経費率	*101%*	*108%*	*99%*	*96%*	***89%***		
収益/調整リスク・アセット[2]	*5.9%*	*5.8%*	*6.2%*	*6.4%*	***6.7%***		

決算のポイント

- 収益: 2,170億円 (前四半期比6%増、前年同期比15%増)
- 税前利益: 230億円 (前四半期比178%増)
- 部門業績は第4四半期をボトムに大きく回復
  - グローバル・マーケッツは前四半期比1%増収～フィクスト・インカムは全ての主要プロダクトで収益が伸長。エクイティはエグゼキューションが横ばい、日本・アジアのエクイティ・プロダクトが減収
  - 日本関連ECMやグローバル・アドバイザリー案件等が貢献し、インベストメント・バンキング収益は比較可能な2017年3月期以降で最高
- コスト・コントロールを徹底 ～業績に応じて賞与引当が増加する一方、退職関連費用は減少、前四半期までに実施したコスト削減施策の効果も顕在化

ビジネスライン別の収益

(10億円)



	2023年3月期		2024年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
グローバル・マーケッツ	154.3	149.3	160.4	170.7	171.6	1%	11%
インベストメント・バンキング	34.8	29.6	30.5	33.4	45.4	36%	30%
収益合計(金融費用控除後)	189.1	178.8	190.9	204.1	217.0	6%	15%

地域別収益

(10億円)

1. *米国顧客取引に起因する損失について、一部債権の回収可能額が合理的に見積もれるようになった為、2023年3月期3Qに111億円(うち91億円はトレーディング収益、19億円は貸倒引当金の戻入)の利益を計上*
2. *ホールセール部門収益合計(金融費用控除後、年換算)を、ホールセール部門が使用する調整リスク・アセット(各会計期間の日次平均)で除したもの。調整リスク・アセット(各会計期間の日次平均)は米国会計原則に基づかない指標で、(1)バーゼル3規制のリスク・アセットと、(2)バーゼル3規制の資本調整項目を当社が内部で設定する最低資本比率で除して算出したリスク・アセット相当額の合計*

11

収益は2,170億円、6%の増収、税前利益は230億円、178%の増益となり、第4四半期をボトムに大きく回復しています。業績に応じて賞与引当金は増えていますが、退職関連費用の減少や、前期までに実施したコスト削減効果で、部門費用は1%減少しています。その結果、経費率は89%に低下しました。

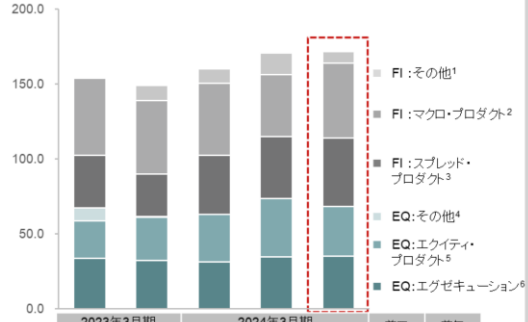
では、ビジネスラインごとに、説明します。12ページをご覧ください。

ホールセール部門:グローバル・マーケッツ

NOMURA

収益合計(金融費用控除後)

(10億円)



	2023年3月期		2024年3月期			前四半期比	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
フィクスト・インカム(FI)	86.7	87.5	97.4	96.9	**103.5**	7%	19%
エクイティ(EQ)	67.5	61.8	63.0	73.8	**68.2**	-8%	1%
グローバル・マーケッツ	154.3	149.3	160.4	170.7	**171.6**	1%	11%

決算のポイント

- 収益:**1,716**億円 (前四半期比**1%**増、前年同期比**11%**増)
  - フィクスト・インカムは前四半期比**7%**増 ～期前半は金融政策や地政学情勢を巡る不透明感でリスク回避姿勢が残るなか、顧客取引を丁寧に執行。期後半の顧客アクティビティ増加を受けて収益が回復、全ての主要プロダクトが増収
  - エクイティは前四半期比**8%**減 ～エグゼキューションは横ばい。エクイティ・プロダクトは米州が堅調も、日本・アジアが減収

フィクスト・インカム
- 収益:**1,035**億円 (前四半期比**7%**増、前年同期比**19%**増)
  - マクロ・プロダクト:為替/エマージングは、顧客アクティビティを捉えたアジアが大幅増収。金利プロダクトは米州中心に増収、日本も堅調
  - スプレッド・プロダクト:証券化商品は米州が4四半期連続の増収。市場の回復と投資家の利回り需要を背景に、クレジットも各地域で堅調

エクイティ
- 収益:**682**億円 (前四半期比**8%**減、前年同期比**1%**増)
  - エクイティ・プロダクト:デリバティブおよびファイナンシングが好調な米州が増収、ボラティリティ低下から顧客アクティビティが低調だった日本・アジアが減速
  - エグゼキューション:プライマリー案件の貢献や、国内外の機関投資家の日本株への関心の高まりを背景に、日本が好調を維持

1. インターナショナル・ウェルス・マネジメント、インベストメント・バンキングとの共管ビジネス、その他各デスクに帰属しない損益 2. 金利プロダクト、為替/エマージング 3. クレジット、証券化商品
4. インベストメント・バンキングとの共管ビジネス、米国顧客取引に起因する損益;米国顧客取引に起因して、2023年3月期3Qに91億円の利益をトレーディング損益として計上)、その他各デスクに帰属しない損益
5. キャッシュおよびデリバティブのトレーディング、プライム・サービス 6. 株式執行ビジネス

12

まず、グローバル・マーケッツ収益は1,716億円で、ほぼ前期並みです。

うち、フィクスト・インカムは1,035億円と、7%の増収となりました。冒頭申し上げました通り、期の前半は、金融政策や地政学情勢をめぐる不透明感で、市場参加者の様子見姿勢が残るなか、リスク・コントロールを徹底しながら顧客オーダーを執行しました。期の後半に掛けて金利の見通しがクリアになってくるにつれ、市場参加者のアクティビティが回復し、収益機会も増加しました。
決して簡単な市場環境ではありませんでしたが、結果として金利、為替/エマージング、証券化商品、クレジットといったすべての主要プロダクトで、増収となっています。

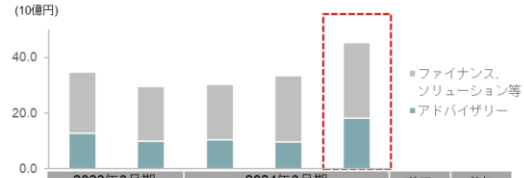
エクイティ収益は682億円、8%の減収です。エクイティ・プロダクトは米州が好調でしたが、日本とアジアは、ボラティリティや顧客アクティビティが低調で減収となりました。エグゼキューションは、日本が引き続き、好調でした。今期もプライマリー案件が貢献したほか、日本株に対する内外機関投資家の関心が続き、取引が拡大しました。

続いてインベストメント・バンキングです。13ページをご覧ください。

ホールセール部門: インベストメント・バンキング

NOMURA

収益合計(金融費用控除後)



2023年3月期		2024年3月期			前四半期比	前年同期比
3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
34.8	29.6	30.5	33.4	**45.4**	36%	30%

決算のポイント

- 収益: 454億円 (前四半期比36%増、前年同期比30%増)
  - 日本・欧州が好調、収益は比較可能な2017年3月期以降で最高
  - アドバイザリーおよびファイナンス、ソリューション等ともに前四半期比で増収
    ～各地域でM&Aが増収、日本関連ECMが大幅増収、DCMも増収基調が継続

アドバイザリー
- 日本では、MBOを含む非公開化案件、クロスボーダー案件に複数関与、日本関連M&Aリーグテーブルでは首位[1]を堅持
- 海外では、M&A完了案件が増収に貢献、クロスボーダーなどハイプロファイル案件も複数サポート

ファイナンス、ソリューション等[2]
- ECMは大型POおよびIPO案件を多数執行、日本ECMリーグテーブルで首位[1]を堅持
- 社債型種類株式、グリーン・デジタル・トラック・ボンドなど、多様なニーズに応じたソリューションを提供

好調なビジネス・モメンタムを背景に多種多様な案件を執行

- 複数地域をまたぐクロスボーダーM&Aや日本国内でのMBOなど多数の案件を公表

Bain Capital (米)保有のニチイホールディングスの日本生命保険への売却 (3,098億円)	**EQT (スウェーデン)**によるベネッセホールディングスのMBO (1,926億円)	Bain Capital (米)による**アウトソーシング**のMBO (3,204億円)
富士通が保有する新光電気工業の公開買付け、および、自己株取得 (合計: 6,152億円)	セブン＆アイHDが保有する**7 Eleven International (米)**による Convenience Group (豪)の買収 (AUD1.7bn)	**Grifols (スペイン)**による Shanghai RAAS Blood Products (中)のHaier Group への売却 (CNY12.5bn)
Cooper Consumer Health (仏) によるViatris (米)が保有する OTC事業 (伊)取得、および、付随するファイナンス (M&A: €2.0bn/ALF: €1.1bn)	**Danone (仏)**によるMichel et Augustin (仏)のFerrero International (ベルギー)への売却 (非開示)	**The Duckhorn Portfolio (米)** によるBrown-Foreman (米)が保有するSonama-Cutrer Vineyards (米)取得 ($391mn)

- 大型案件や新商品など多くのファイナンス案件を執行

デンソー PO (6,101億円)	**アサヒグループホールディングス** 海外売出し (1,770億円)	**KOKUSAI ELECTRIC** グローバルIPO (1,245億円)
ソフトバンク 第一回社債型種類株式 (1,200億円)	**日立製作所** グリーン・デジタル・トラック・ボンド / SB (100億円/800億円)	**セブン＆アイ・ホールディングス** SB (2,200億円)
Banco Santander (スペイン) 非上位シニア債 (€3.3bn)	**BPCE (仏)、IFC (米)、KfW (独)、SEK (スウェーデン) 他** カンガルー債 (Q3合計: AUD1.6bn)	**Ceva Sante Animale (仏)** リファイナンス (€2.4bn)

1. *出所:Refinitiv、2023年1月～12月*
2. *ECM、DCM、買収レバレッジド・ファイナンス(ALF)、グローバル・マーケッツとの共管ビジネス、その他各プロダクトに帰属しない損益*

13

収益は454億円、日本と欧州が好調で、36%の大幅増収となりました。これは、比較可能な2017年3月期以降で最高の四半期収益です。

左側にありますように、「アドバイザリー」、「ファイナンス、ソリューション等」ともに収益が伸びています。「アドバイザリー」では、ベネッセホールディングスやアウトソーシングのMBO案件、Bain Capitalによるニチイホールディングスの日本生命保険への売却など、数多くの案件をサポートし、2023年のM&Aリーグテーブルで首位となっています。

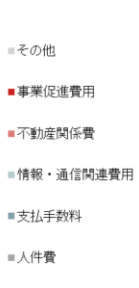
ファイナンス案件でも、デンソー株式の大型売出案件やアサヒグループの海外売出など、事業会社のコーポレート・ガバナンス強化に向けた取り組みをサポートしました。また、ソフトバンクの社債型種類株式や、日立製作所のグリーン・デジタル・トラック・ボンドなど、新しい資金調達方法にもチャレンジし、発行体の皆様に多様なソリューションを提供しました。

次にコストについてご説明します。14ページをご覧ください。

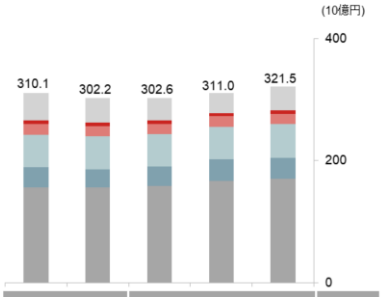
金融費用以外の費用

NOMURA

通期



四半期



	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q	2024年3月期 1Q	2024年3月期 2Q	2024年3月期 3Q	前四半期比
人件費	529.5	605.8	156.3	155.6	158.7	167.1	**170.6**	**2.1%**
支払手数料	105.2	119.2	32.3	30.3	31.4	34.3	**34.3**	**-0.1%**
情報・通信関連費用	184.3	209.5	54.0	53.7	52.8	53.6	**54.3**	**1.4%**
不動産関係費	69.7	66.9	17.2	16.7	16.6	17.5	**16.8**	**-3.8%**
事業促進費用	15.6	22.6	6.3	6.3	6.1	5.4	**6.2**	**14.1%**
その他	232.9	162.0	44.0	39.8	37.0	33.1	**39.3**	**18.8%**
合計	1,137.3	1,186.1	310.1	302.2	302.6	311.0	**321.5**	**3.4%**

決算のポイント

- 金融費用以外の費用: 3,215億円 (前四半期比3%増)
  - 人件費(前四半期比2%増)
    - ✓ 退職関連費用が減少する一方、円安進行や業績に応じた賞与引当金で人件費は増加
  - その他(前四半期比19%増)
    - ✓ 法的費用が増加

14

全社コストは3,215億円、3%の増加となりました。

うち人件費は1,706億円、2%の増加。退職関連費用は減少していますが、円安進行の影響や、業績の回復に伴って賞与引当が増えたことが要因です。

最後に、財務基盤です。15ページをご覧ください。

強固な財務基盤を維持

NOMURA

バランス・シート関連指標と連結総自己資本規制比率

	2023年 3月末	2023年 9月末	2023年 12月末
■ 資産合計	47.8兆円	54.8兆円	54.8兆円
■ 当社株主資本	3.1兆円	3.3兆円	3.3兆円
■ グロス・レバレッジ	15.2倍	16.6倍	16.7倍
調整後レバレッジ[1]	9.4倍	10.0倍	10.5倍
■ レベル3資産[2] (デリバティブ負債相殺後)	0.9兆円	1.0兆円	1.0兆円
■ 流動性ポートフォリオ	7.6兆円	7.8兆円	8.5兆円

(10億円) バーゼル3ベース	2023年 3月末	2023年 9月末[3]	2023年 12月末[2]
Tier 1資本	3,204	3,383	3,371
Tier 2資本	0.4	0.4	0.4
総自己資本の額	3,204	3,383	3,371
リスク・アセット	17,324	18,160	18,378
連結Tier 1 比率	18.4%	18.6%	18.3%
連結普通株式等Tier 1比率[4]	16.3%	16.5%	16.2%
連結総自己資本規制比率	18.4%	18.6%	18.3%
連結レバレッジ比率[5]	5.63%	5.18%	5.26%
適格流動資産(HQLA)[6]	6.5兆円	6.0兆円	6.4兆円
連結流動性カバレッジ比率(LCR)[6]	203.8%	193.7%	191.5%
TLAC比率(リスクアセット・ベース)	31.7%	33.9%	32.7%
TLAC比率(総エクスポージャーベース)	10.6%	10.3%	10.3%

リスク・アセット、連結普通株式等Tier 1比率[4]

リスク・アセットの変動[2]

1. 調整後レバレッジは、総資産の額から売戻条件付買入有価証券および借入有価証券担保金の額を控除した額を、当社株主資本の額で除して得られる比率
2. 2023年12月末は暫定数値
3. リスク・アセットの金額を再在構成しており、今後、変更する可能性があります
4. 連結普通株式等Tier 1比率:Tier 1資本から、その他Tier1資本を控除し、リスク・アセットで除したもの
5. Tier 1資本を、エクスポージャー額(オンバランス項目+オフバランス項目)で除したもの
6. 四半期の日次平均の値

15

左下のテーブルにあるTier 1資本は約3.4兆円、リスク・アセットは18.4兆円となり、Tier 1比率は18.3%、普通株式等Tier 1比率は16.2%と、引き続き、十分な資本水準を維持しています。

以上、第3四半期決算についてご説明申し上げました。

最後になりますが、今期も日本市場における構造的な変化を追い風に、マザーマーケットを起点とした強みや、いままで進めてきた戦略的な取り組みを活かし、着実な成果を残すことができました。営業部門は約8年ぶりの好決算を達成し、インベストメント・バンキングでも日本企業によるさまざまなコーポレート・アクションを多面的にサポートし、IB収益は記録的な水準となりました。

2024年に入って日経平均株価はさらに上昇基調を続け、新NISAをきっかけに、個人マネーの「貯蓄から資産形成の流れ」が本格的に始まったと実感しています。実際、当社経由のNISA買付額は、先週までの僅か3週間で、2023年の年間買付額の3 分の1以上に達しています。

日本企業によるコーポレート・ガバナンスの強化や資本効率の向上に向けた動きも、ここから本格化してくると見ており、企業経営者からさまざまな相談が寄せられています。日銀による金融政策の修正期待も踏まえると、日本ビジネスは良いモメンタムが続くと想定されます。

海外ビジネスでは、過去2年間続いた金融引き締めで、特にマクロ・プロダクトは苦戦を強いられましたが、ようやく金利がピークアウトし、期の後半に掛けて回復の兆しが出てきました。2024年は、市場参加者の待機資金や繰越需要が動き出し、地域ごとの強弱はあるとは思いますが、回復基調が続くと期待しています。

1月足元も、営業部門では第3四半期の収益水準をしっかりと維持できています。ホールセール部門でも、米州金利プロダクトや、各地域のエクイティ・デリバティブが堅調で、収益は第3四半期を上回るペースで進捗しています。

国内・外で追い風が吹くこのタイミングは、長期的な課題に取り組む好機ともいえます。持続成長可能なビジネス基盤の構築に向け、リスクライトなビジネスの拡大と収益構造の安定化を図りながら、更なるROE改善に向けて取り組んでいきます。

今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

NOMURA

Financial Supplement

バランス・シート関連データ

NOMURA

連結貸借対照表

(10億円)

	2023年 3月末	2023年 12月末	前期比 増減
資産			
現金・預金	4,521	**5,112**	591
貸付金および受取債権	5,207	**6,464**	1,257
担保付契約	18,117	**20,465**	2,348
トレーディング資産および プライベートエクイティ・デット投資[1]	17,609	**20,262**	2,653
その他の資産[1]	2,317	**2,449**	132
資産合計	47,772	**54,753**	6,981

	2023年 3月末	2023年 12月末	前期比 増減
負債			
短期借入	1,009	**875**	-134
支払債務および受入預金	5,297	**6,102**	804
担保付調達	16,109	**20,739**	4,630
トレーディング負債	10,558	**10,540**	-18
その他の負債	1,176	**1,332**	156
長期借入	10,399	**11,805**	1,406
負債合計	44,548	**51,392**	6,844
資本			
当社株主資本合計	3,149	**3,280**	131
非支配持分	76	**81**	6
負債および資本合計	47,772	**54,753**	6,981

1. 担保差入有価証券を含む

バリュー・アット・リスク

NOMURA

- VaRの前提
  - 信頼区間 ： 95%
  - 保有期間 ： 1日
  - 商品の価格変動等を考慮

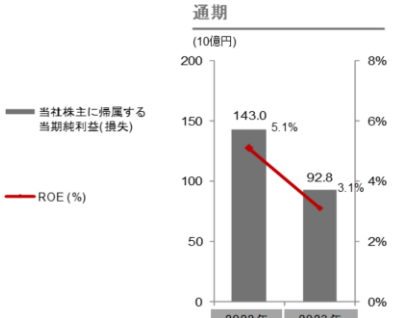
- VaRの実績(10億円)
  - 期間 ： 2023.4.1～2023.12.31
  - 最大 ： 6.8
  - 最小 ： 4.3
  - 平均 ： 5.5

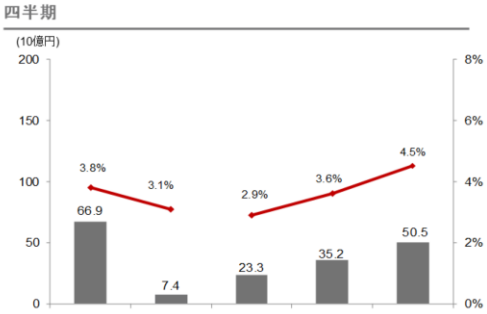
(10億円)

	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期		2024年3月期		
	3月末	3月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
株式関連	1.4	3.3	3.5	3.3	3.2	3.0	**3.6**
金利関連	2.3	4.7	4.0	4.7	4.6	3.5	**2.8**
為替関連	0.9	1.4	1.8	1.4	2.3	1.7	**2.3**
小計	4.6	9.4	9.3	9.4	10.1	8.2	**8.7**
分散効果	-1.9	-3.2	-3.7	-3.2	-3.9	-2.7	**-2.9**
連結VaR	2.7	6.2	5.6	6.2	6.2	5.5	**5.8**

連結決算概要

NOMURA





	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q	2024年3月期 1Q	2024年3月期 2Q	2024年3月期 3Q
収益合計(金融費用控除後)	1,363.9	1,335.6	393.7	324.9	348.9	367.8	**400.2**
税引前当期純利益(損失)	226.6	149.5	83.6	22.7	46.3	56.7	**78.7**
当社株主に帰属する当期純利益(損失)	143.0	92.8	66.9	7.4	23.3	35.2	**50.5**
当社株主資本合計	2,914.6	3,148.6	3,138.8	3,148.6	3,265.4	3,291.4	**3,279.5**
ROE(%)[1]	5.1%	3.1%	3.8%	3.1%	2.9%	3.6%	**4.5%**
1株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)(円)	46.68	30.86	22.30	2.46	7.71	11.61	**16.77**
希薄化後1株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)(円)	45.23	29.74	21.51	2.34	7.40	11.21	**16.10**
1株当たり株主資本(円)	965.80	1,048.24	1,045.65	1,048.24	1,071.38	1,092.03	**1,087.95**

1. *四半期のROEは、各決算期累計の当期純利益を年率換算して算出*

連結損益

NOMURA

(10億円)	通期		四半期				
	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期		2024年3月期		
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
収益							
委託・投信募集手数料	332.3	279.9	77.5	63.8	82.8	88.9	**85.7**
投資銀行業務手数料	149.6	113.2	33.8	28.0	31.1	38.6	**55.2**
アセットマネジメント業務手数料	270.0	271.7	67.0	67.4	71.8	76.7	**77.5**
トレーディング損益	368.8	563.3	142.1	118.3	115.6	116.6	**125.1**
プライベートエクイティ・デット投資関連損益	30.8	14.5	8.1	5.3	6.9	1.1	**1.9**
金融収益	284.2	1,114.7	373.3	435.5	549.7	658.5	**686.3**
投資持分証券関連損益	5.4	-1.4	0.6	1.2	4.8	2.8	**-3.4**
その他	152.8	130.9	69.8	51.4	30.8	29.5	**52.1**
収益合計	1,594.0	2,486.7	772.2	770.7	893.4	1,012.7	**1,080.5**
金融費用	230.1	1,151.1	378.6	445.7	544.4	644.9	**680.3**
収益合計(金融費用控除後)	1,363.9	1,335.6	393.7	324.9	348.9	367.8	**400.2**
金融費用以外の費用	1,137.3	1,186.1	310.1	302.2	302.6	311.0	**321.5**
税引前当期純利益(損失)	226.6	149.5	83.6	22.7	46.3	56.7	**78.7**
当社株主に帰属する当期純利益(損失)	143.0	92.8	66.9	7.4	23.3	35.2	**50.5**

連結決算：主な収益の内訳

NOMURA

(10億円)

		通期		四半期				
		2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q	2024年3月期 1Q	2024年3月期 2Q	2024年3月期 3Q
委託・投信募集手数料	委託手数料-株式	236.4	190.8	52.6	41.3	55.2	58.3	**56.4**
	委託手数料-株式以外	18.0	17.9	4.3	4.0	4.0	4.0	**3.9**
	投信募集手数料	43.7	30.3	8.3	8.0	13.4	14.0	**13.1**
	その他手数料	34.3	41.0	12.2	10.4	10.1	12.6	**12.3**
	合計	332.3	279.9	77.5	63.8	82.8	88.9	**85.7**
投資銀行業務手数料	株式	33.1	18.9	8.1	5.4	4.5	13.1	**17.9**
	債券	29.8	21.1	4.5	5.4	5.3	5.2	**7.9**
	M&A・財務コンサルティングフィー	64.2	53.9	14.3	11.3	13.6	10.0	**21.0**
	その他	22.4	19.3	6.9	5.7	7.6	10.3	**8.4**
	合計	149.6	113.2	33.8	28.0	31.1	38.6	**55.2**
アセットマネジメント業務手数料	アセットマネジメントフィー	171.1	171.3	41.8	42.6	45.2	47.6	**48.1**
	アセット残高報酬	79.6	76.2	19.0	18.6	20.0	22.0	**22.2**
	カストディアルフィー	19.4	24.2	6.2	6.2	6.6	7.0	**7.2**
	合計	270.0	271.7	67.0	67.4	71.8	76.7	**77.5**

連結決算：セグメント情報と地域別情報　税前利益(損失)

NOMURA

連結決算数値とセグメント数値間の調整：税前利益(損失)

(10億円)	通期		四半期				
	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期		2024年3月期		
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
営業部門	59.2	33.5	13.3	9.8	22.9	29.0	**31.9**
インベストメント・マネジメント部門	71.5	43.5	33.3	16.4	3.6	23.2	**15.6**
ホールセール部門	74.5	29.4	-1.9	-14.2	2.1	8.3	**23.0**
3セグメント合計税前利益	205.2	106.4	44.7	11.9	28.7	60.5	**70.5**
その他	15.8	73.4	59.5	15.7	21.9	-6.5	**21.2**
セグメント合計税前利益	221.0	179.7	104.3	27.6	50.6	54.1	**91.7**
営業目的で保有する投資持分証券の評価損益	5.6	-30.3	-20.7	-4.9	-4.3	2.7	**-13.0**
税前利益(損失)	226.6	149.5	83.6	22.7	46.3	56.7	**78.7**

地域別情報：税前利益(損失)[1]

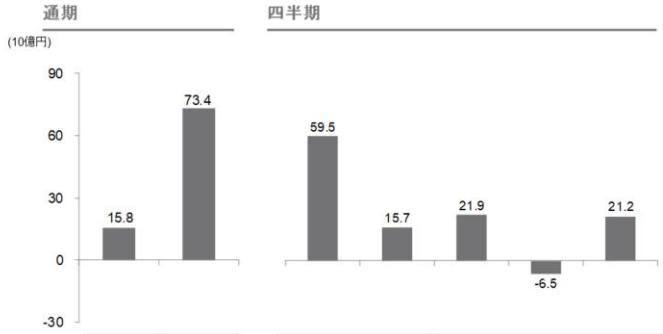
(10億円)	通期		四半期				
	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期		2024年3月期		
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
米　州	-41.0	-51.7	7.9	-16.6	-19.9	13.1	**7.1**
欧　州	-21.8	9.2	8.3	-3.6	-5.9	-9.2	**0.8**
アジア・オセアニア	28.6	31.0	-1.7	8.7	1.9	2.5	**10.1**
海外合計	-34.1	-11.5	14.6	-11.5	-23.9	6.5	**18.0**
日本	260.8	161.0	69.0	34.2	70.3	50.2	**60.7**
税前利益(損失)	226.6	149.5	83.6	22.7	46.3	56.7	**78.7**

1. *米国会計原則に基づく「地域別情報」を記載（但し当第3半期の数値は速報値）。米国会計原則に基づく「地域別情報」は、その収益および費用の各地域への配分が原則として役務の提供される法的主体の所在国に基づき行われており、当社において経営管理目的で用いられているものではありません*

セグメント「その他」

NOMURA

税前利益(損失)



	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q	2024年3月期 1Q	2024年3月期 2Q	2024年3月期 3Q
経済的ヘッジ取引に関連する損益	-9.9	-4.8	-1.5	6.3	3.4	-8.9	**7.6**
営業目的で保有する投資持分証券の実現損益	1.4	28.4	21.9	6.2	8.2	0.0	**11.8**
関連会社損益の持分額	36.8	47.7	8.9	12.7	13.7	9.0	**8.8**
本社勘定	-91.1	-12.6	-3.3	-7.8	1.9	1.4	**-6.5**
その他	78.6	14.7	33.5	-1.8	-5.3	-8.0	**-0.5**
税前利益(損失)	15.8	73.4	59.5	15.7	21.9	-6.5	**21.2**

営業部門関連データ(1)

NOMURA

(10億円)

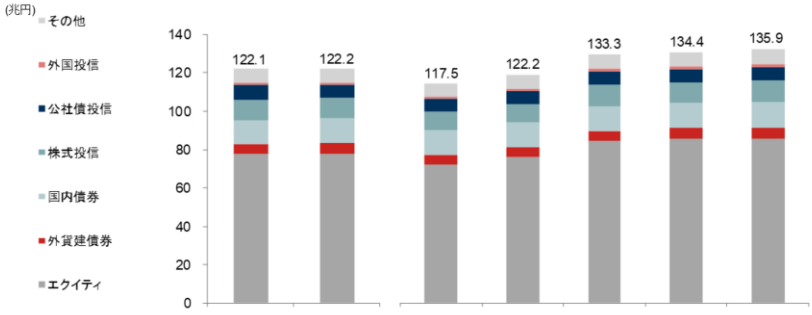
	通期		四半期						
	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q	2024年3月期 1Q	2024年3月期 2Q	2024年3月期 3Q	前四半期比	前年同期比
委託・投信募集手数料	138.5	112.5	31.2	29.1	41.3	41.9	**41.1**	**-2.0%**	**31.8%**
うち株式委託手数料	67.4	50.9	13.4	13.4	19.1	18.8	**17.2**	**-8.7%**	**28.0%**
うち投資信託募集手数料	43.5	30.2	8.3	8.0	13.4	13.5	**13.1**	**-3.1%**	**57.5%**
販売報酬	44.0	44.2	12.2	10.6	12.8	14.9	**14.3**	**-4.2%**	**16.8%**
投資銀行業務手数料等	19.0	16.2	5.2	4.2	3.8	5.1	**9.1**	**80.4%**	**73.9%**
投資信託残高報酬等	109.3	108.1	27.1	26.6	28.4	31.0	**31.2**	**0.8%**	**15.4%**
純金融収益等	17.2	19.3	5.3	4.8	5.8	6.1	**6.9**	**13.5%**	**30.2%**
収益合計(金融費用控除後)	328.0	300.2	81.0	75.3	92.1	98.9	**102.6**	**3.7%**	**26.7%**
金融費用以外の費用	268.7	266.7	67.8	65.5	69.1	69.9	**70.7**	**1.2%**	**4.3%**
税前利益	59.2	33.5	13.3	9.8	22.9	29.0	**31.9**	**9.9%**	**140.7%**
国内投信販売金額[1]	2,197.0	2,111.0	647.1	478.0	726.7	820.5	**757.6**	**-7.7%**	**17.1%**
株式投信	1,931.5	1,560.3	438.3	396.2	607.9	626.6	**627.3**	**0.1%**	**43.1%**
外国投信	265.5	550.7	208.8	81.8	118.8	193.9	**130.3**	**-32.8%**	**-37.6%**
その他									
個人向け国債販売額(約定ベース)	618.6	526.2	111.4	153.4	103.1	99.6	**127.7**	**28.2%**	**14.6%**
リテール外債販売額	643.0	949.6	239.5	269.7	234.1	381.9	**271.1**	**-29.0%**	**13.2%**

1. *旧ネット&コールを含む*

営業部門関連データ(2)

NOMURA

営業部門顧客資産残高



	2022年3月期 3月末	2023年3月期 3月末	2023年3月期 12月末	2023年3月期 3月末	2024年3月期 6月末	2024年3月期 9月末	2024年3月期 12月末
エクイティ	77.5	78.0	74.4	78.0	86.6	87.7	**87.9**
外貨建債券	5.1	5.3	5.2	5.3	5.7	5.8	**6.0**
国内債券[1]	12.6	13.2	12.9	13.2	13.3	13.3	**13.5**
株式投信	10.8	10.2	9.7	10.2	11.3	11.2	**11.9**
公社債投信	7.5	6.8	7.1	6.8	7.2	7.1	**7.1**
外国投信	1.3	1.2	1.2	1.2	1.4	1.5	**1.5**
その他[2]	7.3	7.5	7.0	7.5	7.8	7.8	**8.0**
合計	122.1	122.2	117.5	122.2	133.3	134.4	**135.9**

1. CB・ワラントを含む　2. 年金保険契約貸産残高を含む

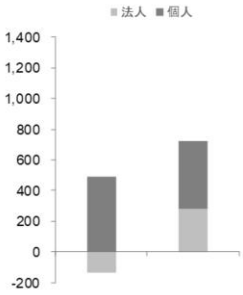
営業部門関連データ(3)

NOMURA

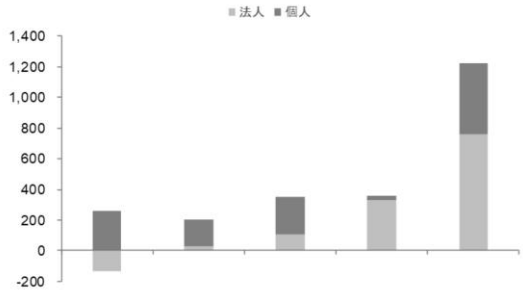
現金本券差引[1]

(10億円)

通期



四半期



	2022年3月期	2023年3月期
法人[2]	-136	282
個人[3]	600	438
合計	463	720
入金預り[4]	4,180	4,057

2023年3月期		2024年3月期		
3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
-137	27	108	331	**756**
259	173	244	26	**464**
122	200	352	357	**1,220**
1,010	1,064	1,033	1,169	**1,303**

1. *現金および本券の流入から流出を差引*
2. *法人顧(地域金融機関を除く)、国内のウェルス・マネジメント・グループを含む*
3. *リテールチャネル、ネット&コール、仲介、職域、ほっとダイレクトを含む。現金本券差引の定義を見直したことから、2022年3月期及び2024年3月期第1四半期の数字を修正。*
4. *リテールチャネルのみ対象*

営業部門関連データ(4)

NOMURA

口座数

(千口座)	2022年3月期 3月末	2023年3月期 3月末	2023年3月期 12月末	2023年3月期 3月末	2024年3月期 6月末	2024年3月期 9月末	2024年3月期 12月末
残あり顧客口座数	5,348	5,353	5,352	5,353	5,395	5,396	**5,448**
株式保有口座数	2,955	2,993	2,967	2,993	2,976	2,962	**2,964**
NISA開設口座数(累計)[1]	1,589	1,632	1,625	1,632	1,681	1,699	**1,758**
オンラインサービス口座数	5,067	5,208	5,173	5,208	5,297	5,377	**5,476**

個人新規開設口座数・IT比率[2]

(千口座)	通期 2022年3月期	通期 2023年3月期	四半期 2023年3月期 3Q	四半期 2023年3月期 4Q	四半期 2024年3月期 1Q	四半期 2024年3月期 2Q	四半期 2024年3月期 3Q
個人新規開設口座数	201	199	48	55	60	88	**87**
IT比率[2]							
売買件数ベース	83%	85%	84%	85%	84%	84%	**83%**
売買金額ベース	59%	59%	58%	59%	58%	58%	**59%**

1. ジュニアNISAを含む
2. 現物株のうち、オンラインサービスを通じて売買された割合

インベストメント・マネジメント部門関連データ(1)

NOMURA

(10億円)	通期		四半期						
	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期		2024年3月期			前四半期比	前年同期比
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
事業収益	119.9	120.7	31.4	28.7	32.5	33.4	**33.3**	**-0.3%**	**6.2%**
投資損益	28.1	7.9	25.6	9.1	-6.0	11.7	**5.6**	**-52.0%**	**-78.0%**
収益合計(金融費用控除後)	148.0	128.6	57.0	37.8	26.5	45.1	**38.9**	**-13.7%**	**-31.6%**
金融費用以外の費用	76.5	85.1	23.7	21.5	22.9	21.9	**23.3**	**6.6%**	**-1.3%**
税前利益(損失)	71.5	43.5	33.3	16.4	3.6	23.2	**15.6**	**-32.8%**	**-53.2%**

運用資産残高 - 会社別

(兆円)	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期		2024年3月期		
	3月末	3月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
野村アセットマネジメント	69.6	69.1	66.5	69.1	78.0	78.3	**80.4**
ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント他	3.9	3.9	3.8	3.9	4.7	4.9	**5.0**
運用資産残高(グロス)[1]	73.5	73.0	70.2	73.0	82.7	83.2	**85.5**
グループ会社間の重複資産	5.5	5.7	5.6	5.7	6.6	6.7	**7.0**
運用資産残高(ネット)[2]	67.9	67.3	64.7	67.3	76.1	76.5	**78.5**

1. *野村アセットマネジメント、ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント、ウエルス・スクエアの運用資産並びに野村メザニン・パートナーズ、野村キャピタル・パートナーズ、野村リサーチ・アンド・アドバイザリーおよび野村リアルアセット・インベストメントの運用資産に対する第三者による投資額の合計*
2. *運用資産残高(グロス)から重複資産控除後*

インベストメント・マネジメント部門関連データ(2)

NOMURA

インベストメント・マネジメント部門 資金流出入ービジネス別[1, 2]

(10億円)	通期		四半期				
	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期		2024年3月期		
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
投資信託ビジネス	1,236	156	-100	-358	649	475	**-60**
うちETF	683	-250	-347	-221	42	266	**-131**
投資顧問・海外ビジネス他	830	-916	57	-134	1,064	118	**385**
資金流出入 合計	2,066	-760	-44	-492	1,713	593	**326**

国内公募投信残高推移と野村アセットマネジメントのシェア[3]

(兆円)	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期		2024年3月期		
	3月末	3月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
国内公募投信残高							
マーケット	163.1	166.2	157.2	166.2	187.5	189.1	**196.9**
野村アセットマネジメントシェア	27%	27%	27%	27%	27%	27%	**26%**
国内公募株式投信残高							
マーケット	148.9	152.2	142.7	152.2	171.7	173.4	**181.3**
野村アセットマネジメントシェア	25%	25%	25%	25%	25%	25%	**25%**
国内公募公社債投信残高							
マーケット	14.2	13.9	14.5	13.9	15.8	15.7	**15.6**
野村アセットマネジメントシェア	44%	44%	44%	44%	43%	43%	**44%**
ETF残高							
マーケット	61.8	63.3	59.2	63.3	72.8	73.1	**74.9**
野村アセットマネジメントシェア	44%	44%	44%	44%	44%	43%	**43%**

1. 運用資産残高(ネット)に基づく資金流出入　2. 2023年3月期1Qに運用資産残高及び資金流出入の測定方法を見直したことに伴い、過年度の数値を組み替えて表示　3. 出所:投資信託協会

ホールセール部門関連データ

NOMURA

(10億円)	通期		四半期						
	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q	2024年3月期 1Q	2024年3月期 2Q	2024年3月期 3Q	前四半期比	前年同期比
収益合計(金融費用控除後)	703.1	772.4	189.1	178.8	190.9	204.1	**217.0**	**6.3%**	**14.8%**
金融費用以外の費用	628.6	743.0	190.9	193.1	188.7	195.8	**194.0**	**-0.9%**	**1.6%**
税前利益(損失)	74.5	29.4	-1.9	-14.2	2.1	8.3	**23.0**	**178.0%**	**-**

ホールセール部門 収益の内訳

(10億円)	通期		四半期						
	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q	2024年3月期 1Q	2024年3月期 2Q	2024年3月期 3Q	前四半期比	前年同期比
フィクスト・インカム	326.9	402.4	86.7	87.5	97.4	96.9	**103.5**	**6.8%**	**19.3%**
エクイティ	229.5	253.9	67.5	61.8	63.0	73.8	**68.2**	**-7.7%**	**0.9%**
グローバル・マーケッツ	556.4	656.3	154.3	149.3	160.4	170.7	**171.6**	**0.5%**	**11.3%**
インベストメント・バンキング	146.6	116.1	34.8	29.6	30.5	33.4	**45.4**	**35.9%**	**30.4%**
収益合計(金融費用控除後)	703.1	772.4	189.1	178.8	190.9	204.1	**217.0**	**6.3%**	**14.8%**

人員数

	2022年3月期	2023年3月期	2023年3月期		2024年3月期		
	3月末	3月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
日本	15,213	15,131	15,282	15,131	15,382	15,158	**14,996**
欧州	2,820	2,937	2,908	2,937	2,971	2,993	**3,015**
米州	2,257	2,387	2,392	2,387	2,426	2,486	**2,458**
アジア・オセアニア[1]	6,295	6,320	6,634	6,320	6,465	6,492	**6,449**
合計	26,585	26,775	27,216	26,775	27,244	27,129	**26,918**

1. *インド(ポワイ・オフィス)を含む*

Disclaimer

本資料は、野村ホールディングス株式会社が、米国会計基準による2024年3月期第3四半期に関する情報の提供を目的として作成したものです。

本資料は、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。売付または買付の勧誘は、それぞれの国・地域の法令諸規則等に則って作成・配布される募集関連書類または目論見書に基づいて行われます。

本資料に掲載されている情報や意見は、信頼できると考えられる情報源より取得したものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落、誤謬、本情報の使用により引き起こされる損害等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

本資料の一切の権利は別段の記載がない限り野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、当社の書面による承諾を得ずに複製または転送等を行わないようお願いいたします。

本資料は、将来の予測等に関する情報(「将来予測」)を含む場合があり、また当社の経営陣は将来予測に関する発言を行うことがあります。これらの情報は、過去の事実ではなく、あくまで将来の事象に対する当社の予測にすぎず、その多くは本質的に不確実であり、当社が管理できないものであります。実際の結果や財務状態は、これらの将来予測に示されたものとは、場合によっては著しく異なる可能性があります。したがって、将来予測は、過度に信頼すべきではなく、不確実性やリスク要因をあわせて考慮する必要がある点にご留意ください。実際の結果に影響を与える可能性がある重要なリスク要因としては、経済情勢、市場環境、政治的イベント、投資家のセンチメント、セカンダリー市場の流動性、金利の水準とボラティリティ、為替レート、有価証券の評価、競争の条件と質、取引の回数とタイミング等が含まれるほか、当社ウェブサイト(https://www.nomura.com)、EDINET(https://info.edinet-fsa.go.jp/)または米国証券取引委員会(SEC)ウェブサイト(https://www.sec.gov)に掲載されている有価証券報告書等、SECに提出した様式20-F年次報告書等の当社の各種開示書類にもより詳細な記載がございますので、ご参照ください。

なお、本資料の作成日以降に生じた事情により、将来予測に変更があった場合でも、当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

NOMURA

Nomura Holdings, Inc.
www.nomura.com/jp/